

『頭痛は消える!』

第九回

女性活躍社会に貢献する日常生活の工夫
— 頭痛を軽減する結婚相手の選び方

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

さて『頭痛は消える!』シリーズも残すところあと二回となりました。ここからは少しばかり、大人のお話をいたしましょう。

まずは頭痛持ちの女性の結婚相手の選び方です。結婚は女性にとって、人生を左右するといっても過言ではありません。人それぞれ色々な恋愛観がありますが、やはり一番に高収入、それに続き高学歴の男性が選ばれがちなのは、昨今あまり変わらないようです。確かに片頭痛持ちの女性患者さんを見ていると、結婚後も家事や育児に追われながら仕事をこなし、また時に双方の両親の介護に追われるなど、過酷な環境に嫁いだ方は、頭痛は悪化の一途をたどることが多いように思われます。どちらかというところ一つの物事に對して執着しがちで、適切にこなすなど、秀でた能力をお持ちの片頭痛持ちの女性は、あらゆる場面で重宝されがちなので、夜一人になりほっとしたときに脳血管が一気に広がり、毎日のご

とく片頭痛に悩まされることすらあるのです。このような状況を鑑みると、やはり将来の夫となる人が高収入であるに越したことはなく、また昨今は高齢化が進み、両親の介護は将来的にはほぼ逃れられないであろう状況を考えれば、少なくとも仕事から解放されることは必要不可欠であるように思われます。

そこで一番の問題となるのは、次に多い相手に望む高学歴です。高学歴であるということは、それだけ頭が良いということですが、このことは脳の過敏性の高さにつながり、この脳の過敏性の高さを病態の根源とする片頭痛家系の人間である可能性が高いといえるのです。さらに片頭痛が母親から遺伝する可能性が高いということを考えれば、男性本人もさることながら、将来の姑なる母親はかなりの切れ者であり、深刻な嫁姑問題に発展する可能性を秘めているといえるでしょう。したがってあまり高学歴にこだわらず、程々の

学歴でも努力して高収入を得ている、もしくは今の努力が将来必ずや成功につながるような男性を、見極めて結婚相手とすることが好ましいのです。脳の過敏性の高い片頭痛持ちの女性ならば、必ずや、それぐらの千里眼は持ち合わせているはずなのですから。

Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーンケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。『頭痛女子のトリセツ』（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。



頭痛は消える

新刊「頭痛は消える」
ダイヤモンド社
(1,404円(税込))を発売中。